

学会ニュースNo.106 トピックス

- ・秋季例会および講演会・臨地研究会会告(第2報) ・評議委員会報告 ・総会報告
- ・第67回研究発表大会報告 ・研究委員会の設置と委員募集のご案内
- ・地理学教室だより-新任の先生のご挨拶
- ・2012年度「彩の国環境地図作品展」のご案内 ・会費納入のお願い

会 告

○2012 年度第 36 回秋季例会・第 42 回講演会・第 109 回臨地研究会のご案内(第2報)

第 36 回立正地理学会秋季例会、第 42 回講演会ならびに第 109 回臨地研究会を、以下の日程で開催します。多くの会員の皆さまの参加をお待ちしております。

第 36 回秋季例会(沖縄)・第 42 回講演会のご案内

1. 日時:2012 年 12 月 8 日(土) 12 時 50 分~17 時 ※会場受付開始は 12 時 30 分から
2. 会場:沖縄国際大学 5 号館 107 教室
宜野湾市宜野湾 2-6-1

《第 42 回講演会》

堂前亮平(久留米大):沖縄における人文地理学の歩み

《第 36 回秋季例会》

全体テーマ:沖縄における地理学の成果と課題

報告(パネリスト)自然地理学:前門 晃(琉球大)、島津 弘(立正大)

人文地理学:宮内久光(琉球大)

GIS:渡邊康志(GIS 沖縄研究室)

コメンテータ:未定

総合討論:堂前亮平(久留米大)、前門 晃(琉球大)、島津 弘(立正大)、

宮内久光(琉球大)、渡邊康志(GIS 沖縄研究室)

司会:廣瀬 孝(琉球大)、小川 護(沖縄国際大)

◎詳しいプログラムは、改めて立正地理学会ホームページでお知らせいたします。

《懇親会》

会場:ぱいかじ沖国大前店(沖縄料理)

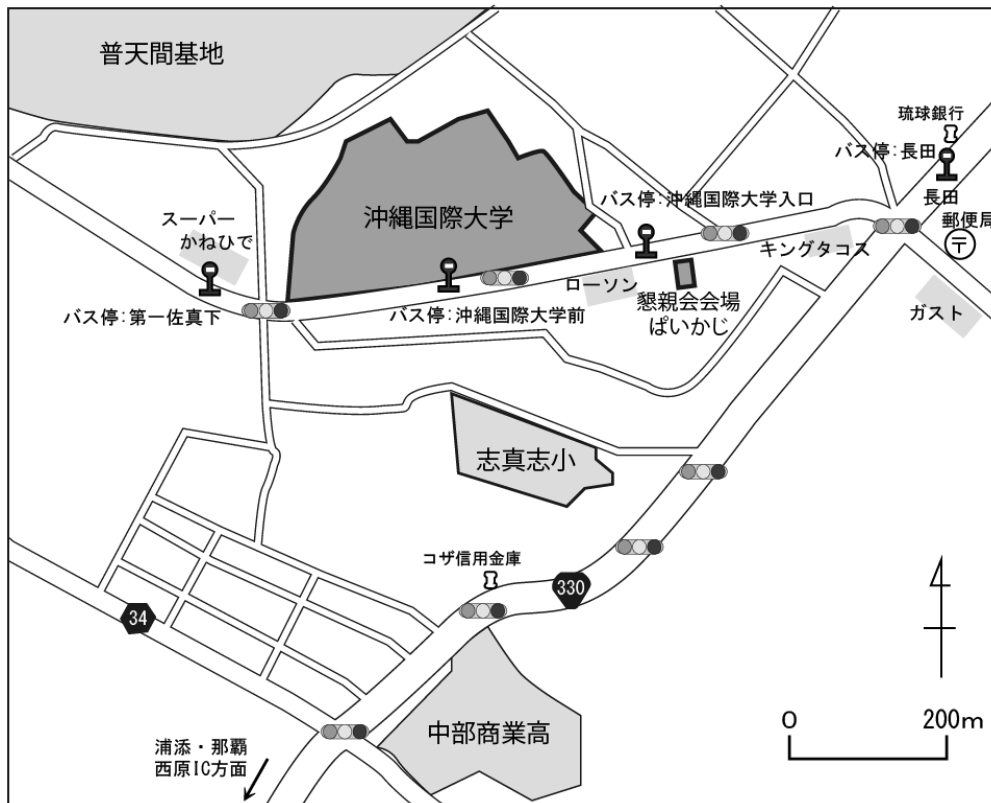
〒 901-2211 沖縄県宜野湾市宜野湾 3-15-19 電話 098-893-9004

会費:一般会員 5,000 円、学生会員 3,000 円(予定)。

懇親会は 8 日(土)18 時~20 時の予定です。参加を希望される方は、3 頁の「※懇親会・臨地研究会の申込み」に従い、必ず集会委員会までお申し込みください。

《講演会・秋季例会・懇親会会場》

以下の地図をご参照ください。



所要時間: 約10分
料金: 200円

バス

- 124 知花行き(大山経由)
【20~60分間隔】
- 125 知花行き(首里経由)
【1日15回】

所要時間: 約11分
料金: 230円

モノレール

■旭橋駅下車

所要時間: 約40分
料金: 480~520円

バス

- 110 長田具志線
【30分間隔】
- バス停: 沖縄国際大学前
- 27 屋慶名(やけな)行き
【5~10分間隔】
- バス停: 長田
- 90 具志川行き(知花線)
【15~30分間隔】
- バス停: 長田
- 98 琉大北口行き
【20~30分間隔】
- バス停: 沖縄国際大学前

那覇空港

那覇バスターミナル

沖縄国際大学

(沖縄国際大学 HP [tp://www.okiu.ac.jp](http://www.okiu.ac.jp) より作成)

第109回臨地研究会のご案内

1. 日時: 2012年12月9日(日) 8時30分~17時
2. 集合場所: パレットくもじ前(那覇市国際通り入口 8時30分までに集合)
3. テーマ: 久高島の祭祀空間と地域振興
4. 案内者: 赤嶺政信(琉球大)、前門 晃(琉球大)、崎浜 靖(沖縄国際大)、上江洲 薫(沖縄国際大)、小川 護(沖縄国際大)、名城 敏(沖縄国際大)ほか
5. 参加費: 3000円(貸切バス代、フェリー代、昼食代を含む)
6. コース: パレットくもじ前→(チャーターバス)→安座真港発 10時→(フェリー)→久高島 徳仁港→いらぶーがま→やぐるがー→フボー御嶽→いしき浜→久高島宿泊交流館にて昼食(区長さんからの概要説明を含む)→御殿庭(うどんみや)→大里家→外間殿

→はんちゃたいなど→久高島徳仁港発 15 時→(高速船)→安座真港→(チャーターバス)→空港 17 時頃→パレットくもじ前(解散)

※安座真港から久高島徳仁港までのフェリーの所要時間は 20 分です。

※昼食は、地元の食材を利用したお弁当を予定しています。

◎内容に変更があった場合は、立正地理学会ホームページ等でお知らせいたします。

7. 募集定員:35 名

※懇親会・臨地研究会の申込み

参加を希望する会員は、ハガキもしくは電子メールに氏名・所属・電話番号・電子メールアドレスを明記し、立正地理学会 集会委員会宛にご連絡下さい。

締切は 11 月 10 日(金)必着とします。送り先、メールアドレスは次の通りです。

住所:〒360-0194 熊谷市万吉 1700

立正大学地理学教室内 立正地理学会集会委員会

メールアドレス:geosoc@ris.ac.jp

宿泊施設について

那覇市内中心部の国際通り周辺および新都心などに多くの宿泊施設があります。混み合うことが予想されますので、各自お早目の手配をお願いします。

なお、現地世話人の小川 護会員、崎浜 靖会員(沖縄国際大)のメールアドレスは次の通りです。小川会員:ogawa@okiu.ac.jp、崎浜会員:sakihama@okiu.ac.jp

○2012 年度立正地理学会評議員会報告

2012 年 6 月 1 日(金)18 時より、立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ 6 階会議室において、出席者 14 名、委任状提出者 13 名、計 27 名にて評議委員会が開催された。議事では、まず 2011 年度事業報告が島津常任委員長よりなされた。次に、2011 年度決算報告が山田庶務会計委員長よりなされ、いずれの事項も承認された。引き続き、2012 年度事業計画・予算案が提出され、いずれの事項も承認された。(集会委員会)

○2012 年度(第 67 回)立正地理学会総会報告

2012年6月2日(土)11時30分より、立正大学熊谷校舎アカデミックキューブA205教室において、出席者63名、委任状提出者222名、計285名にて総会が開催された。正議長に元木理寿会員、副議長に岡田 登会員を選出し議事に入った。議事では、2011年度の事業報告が島津常任委員長から、決算報告が山田庶務会計委員長から、会計監査報告が岩動会計監査からなされた。審議後、いずれの事項も承認された。引き続き、2012年度事業計画案、予算案、立正地理学会役員・委員案が提出され、審議後いずれの事項も承認された。(集会委員会)

○2012年度(第67回)立正地理学会研究発表大会報告

1. 2012年度 研究発表大会の概要

日時:2012年6月2日(土) 総会・研究発表 10:00~17:00 懇親会 17:10~19:00

会場:立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ2階

大会参加人数:およそ70名



写真1 ポスター発表(須田恵里香会員撮影)

写真2 口頭発表(須田恵里香会員撮影)

2. 2012年度発表大会取材レポート

3つの研究発表に関する広報委員の取材レポートです(広報委員:須田恵里香・加藤未来)。

<口頭発表>

岩動志乃夫(東北学院大):仙台市における登米市物産直売所の運営特性と仕入れ形態

本発表は、登米市の仙台物産直売所を事例に、運営形態や納品方法などについてまとめたものです。この直売所は、登米物産の販路拡大と観光PRを目的として設立されました。一部の商品は生産者自らが販売し、仙台市民と直接コミュニケーションをとることができます。直売所への商品納品方法で特徴的なのは共同配送システムです。これは、生産者が直売所まで商品を持ち込まなくても、登米市内の配送所まで運べば、まとめて直売所へ輸送してくれるというものです。共同配送システムには、輸送費の軽減はもちろん、個人農家や小規模生産者が参加しやすくなるというメリットがあり、約4割の生産者が活用しているとのことでした。研究地域の物産直売所における特徴が簡潔にまとめられており、卒業研究の良い見本となる発表であると感じました。(広報委員 加藤未来)

谷口智雅・朴恵淑(三重大):大学教養教育とユネスコスクールによる環境教育実践

三重大学は環境教育に力を入れており、その具体的な内容について発表されました。環境人材育成プログラム、学生主体によるISO活動、カーボンフリー大学、ユネスコスクールなど多彩な活動が紹介されました。

中でも私は、一般教養科目として開設されている四日市学という授業に興味を持ちました。この授業はオムニバス形式で開講されており、学部の講師だけではなく、関連企業や

マスコミの方々にも教壇に立っていただき、さまざまな視点から、四日市公害や人間と自然との関わりについて学ぶものでした。ひとつの事柄について、異なる立場の人々の意見を聞くことは大変意義があり、私も受講してみたいと思いました。（広報委員 加藤未来）

<ポスター発表>

重田祥範・渡来 靖・中川清隆(立正大):埼玉県熊谷市およびその周辺における気温分布の地理的特徴

本研究は、定点観測と自動車による移動観測の2つの方法を用いて、熊谷市内の広範囲にわたるヒートアイランド調査を行ったものです。その結果、熊谷市のヒートアイランド現象は東西へ帯状に出現し、その中心は熊谷駅であること、HII(ヒートアイランド強度)は5°C前後であり(郊外より5°C前後高い)、HIIが最大になるのは19時から24時頃であることが明らかにされました。

気温の水平分布をみると、熊谷駅を中心にJR高崎線や17号バイパスに沿ってヒートアイランドが形成されている様子や、立正大学がある荒川以南の地域は、駅周辺部に比べて気温が低いことが分かりました。図を効果的に使うと、見る人に分かりやすく、印象的な発表になると感じました。学生にとっても、フィールドワークの報告書や卒業論文を書く際の参考になる発表でした。（広報委員 加藤未来）

3. 学生インタビュー

2012年度発表大会に参加した立正大学地理学科の学生のみなさんから、大会に参加しての感想や学んだことについてインタビューしました。今年参加しなかった学生のみなさんはぜひ来年度の大会に参加しましょう。

地球環境科学部 地理学科 1年 戸澤右門

今回の発表の中で、とくに「仙台市における登米市物産直売所の運営特性と仕入れ形態」が印象に残っています。必要な情報がすべてスライドにまとめられており、発表の流れや話し方も理解しやすかったです。初めて学会に参加しましたが、今後も機会があれば積極的に参加したいと思いました。

地球環境科学部 地理学科 1年 戸沢幸子

今回初めて学会に参加しました。中でも戸田真夏先生の「ネパール・トリスリ川上流域における集落立地と地形との関係」にとっても興味を持ちました。外国について調べる方が少なかったのも、私も機会があったら調べてみたいと思いました。また、発表や説明の仕方も学ぶことができ、充実した1日でした。

地球環境科学部 地理学科 2年 櫻葉みなみ

私が興味を持った発表は「妙正寺川流域の土地利用の変化過程—住宅地形成の視点から」です。私の実家も川沿いに立地しているため、この研究内容との共通点や相違点を知りたいと思いました。

今回の学会に参加し、さまざまな地域の話聞いて、自分の住んでいるところへの関心がさらに強まりました。また、質疑応答では的確にスムーズに受け答えしている様子が素晴らしく、基礎セミナーという授業での論文発表の参考にもなり、とても勉強になりました。

地球環境科学部 地理学科 4年 森村 健

私も水に関する卒業研究を行っているため、河野先生の「歴史上の人物にまつわる茶の湯水の分布とその水質について」に興味を持ちました。茶の湯の水を分析すると、ミネラル分が低く蒸留水に近い水と、比較的ミネラル分に富むが、カチオンとアニオンのバランスが良い水の2つに分類できるとのことでした。学会に参加し、様々な研究発表を見て、研究には広い視野をもつことが重要であると改めて感じました。この経験を自分の卒業研究にも活かしたいと思います。

4. 先輩から学生のみなさんへ

2012年度発表大会に参加しておられ、さまざまな分野で活躍されている地理学科OBの方々に、学生のみなさんへのアドバイスなどを伺ってみました。

岡田 登さん(太田市役所) 2006年度大学院博士課程修了

大学院時代は、内山先生のもとで農業地理学を研究していました。私は、「関東地方における野菜生産地域の統合と分化の過程」をテーマとし、聞き取り調査や現地での土地利用調査をもとに、農業産地の変化について研究しました。

現在は市役所に勤めています。大学院時代の研究、そして講義やフィールドワークでたくさんの地域について学び、足を運びました。この経験が「地域の特性」を理解することに繋がっており、現在の仕事を行うにあたってとても役立っています。みなさんも学生時代を利用して、たくさんの地域に足を運び、地域の特性を感じてみてください。

小椋 学さん(株式会社ゼンリンデータコム) 2006年度大学院修士課程修了

大学院では、鈴木厚志先生のもとで「余暇の地理学」を研究しており、埼玉県所沢市における公園の利用者属性および利用実態を論文として取り纏めました。

現在は株式会社ゼンリンデータコムに勤務し、ホームページやアプリケーション等で地図・位置情報コンテンツを活用する提案を行っています。その中で、大学の授業で学んだGISや地図の知識は、とても役立っています。また、パワーポイントを使用したプレゼンテーションや論文作成の経験は、お客様向けの提案資料を作成する際に生かしています。

このように、大学で学んだことは社会に出てからも活用できることが多いので、いろんなことに積極的に取り組んでみるのが大事だと思います。

(広報委員 須田恵里香)

○研究委員会の設置と委員募集のご案内

新規に研究委員会設立を募集したところ、下記の応募がありました。委員会の設置をお知らせするとともに、多くの会員の参加をお待ちしております。

- 1.委員会名 災害被災地域の復興・振興に関する検討委員会(新規)
- 2.代表者名 初澤 敏生
- 3.所属 福島大学
- 4.研究期間 2012年8月～2014年3月
- 5.募集人員 5名程度
- 6.研究テーマ

東日本大震災による被害地域における地域復興・地域振興のあり方に関する研究

7.研究目的

東日本大震災の後、多くの被災地では急速に復旧・復興のための取り組みが進められているが、研究者の支援は限られたものとどまっている。復興を進めるためにはその地域の特性を把握した上で、30年後、50年後を見据えた計画を立案することが必要である。このため、被災地支援を進めるためには、多くの地域で多方面から研究を進めることが求められている。

地理学は多くの地域研究を蓄積し、地域調査法などに関する研究も進んでいることから、他の学問と比較しても被災地支援のために重要な役割を果たすことが期待される。また、研究成果を「社会化」「応用」し、社会に還元してその発展に貢献する経験も積んでいる。

本研究会はこのような地理学の特性を活かし、被災地復興に貢献できる研究を行うことを目的としている。研究テーマとしては、まず、それぞれの地域における復興のあり方を検討する。復興という目標やこのあり方が、文字通りの震災被害の前の姿と同様で良いのだろうか。21世紀の東北地方の有り様として、従前の姿が妥当であるのか、震災被害を契機としてどの様な将来像を描くべきなのかについて検討したい。さらに、これと合わせて被災地が直面する様々な課題とその解決方向に関する研究も行う。研究を進めるにあたっては、特定の地域・視点に限定せず、幅広くその対象を設定したい。被災地では多くの地域が様々な課題を抱えており、研究による支援が急務の課題となっているからである。その意味において、本研究会は被災地支援研究の緩やかなネットワークの形成の基盤となることも、目的の一つとしている。

8.予算計画

当面は各人の個人負担で統計的・地図的・資料的分析を行い、復興のあり方についての検討資料の作成を行う。また、前述の資料の検討と共に、東北地方在住研究者を中心として地域調査・地域支援活動を進める。これらの成果に関しては定期的に研究会等を実施し、東北地方各地の地域復興・地域振興について検討する。

9.予測される成果

本研究会の目的は被災地支援におかれており、地域の復興に役立てられることが期待される。ただし、学会としての活動である以上、これらの研究が学術の発展に役立つものでなければならないのも当然である。これに関しては、各地域の個別的な地域研究にとどまらず、各種の資料を用いての東北地方各地域の多重的ネットワークに関する分析を通して、地域復興・地域振興のあるべき姿が明らかにすることを追究したい。

10.参加申込

委員会名を記載し、氏名・所属・連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)を明記して、立正地理学会まで葉書もしくはメール(geosoc@ris.ac.jp)にてお申し込み下さい。

11.申込期限

2012年11月30日(金)

継続の委員会のお知らせ

「放射性物質局地的汚染」研究委員会 (継続)

1. 世話人 : 戸田真夏会員(代表)
2. 研究期間 : 2011年4月～2013年3月

(長坂副常任委員長)

☆地理学教室だより☆

立正大学地理学科では今年度から3名の新しい先生をお迎えいたしました。

今回の地理学教室だよりでは、新しく着任された阿由葉 司先生、貝沼恵美先生、松尾忠直先生にお話をお伺いしました。

○阿由葉 司特任教授よりご挨拶

本年4月、地理学科に着任した阿由葉です。主に本学(熊谷)での博物館学芸員養成科目を担当します。

昭和56年4月に千葉県の県立房総風土記の丘という博物館に学芸員として赴任以来、千葉県の県教育委員会の文化課、県立大利根博物館、その後国立歴史民俗博物館に転じ、そしてまた千葉県に復し県総務部文書課を経て、県立房総のむら、県立中央博物館、県立現代産業科学館といった博物館に勤務し、その後県議会事務局勤務も経験しました。この間31年、設置主体も規模も専門性も異なる6つの博物館勤務を経験し、加えて地方行政の一端も担当してきました。美術館と動植物園、水族館以外は経験したといってもいいかもしれません。学芸員という一専門職として公禄をはむことになったわけですが、このようにさまざまな経験ができたことは大変幸せなことでした。



今、全国の博物館、美術館でその見直しがさげばれています。地域のなかで博物館がどうあるべきなのか、その存在意義についても問われています。これまでの経験を活かして情報発信していきたいと思えます。よろしく願いいたします。

○貝沼恵美特任講師よりご挨拶

4月に地球環境科学部地理学科に着任いたしました貝沼恵美と申します。人生の大部分は関東で過ごしておりますが、今年の3月までは徳島市に8年間住んでいました。大学卒業後に会社員や通訳業の仕事を経験してから大学院(筑波大学)に進学しており、多くの大学の先生方とは少々経歴が異なります。担当科目は、英語関連および地誌学、地域研究関連の授業です。どうぞよろしくお願いいたします。



私自身は、フィリピンの地域研究を専門としています。大学院生の時から継続している研究テーマは、同国における地域格差であり、地域開発や行政の取組み、あるいは格差が存在する社会の仕組みに注目しつつ、その変化と要因を分析しています。近年では、途上国の貧困問題、頭脳流出問題にも関心をもっており、それらの国々が経済的に自立し成長していくうえでの課題も明らかにしていきたいと思っています。

学部は、東京女子大学の出身で、アメリカ研究を専攻していました。卒業論文は「アメリカ人から見たソ連邦の崩壊」というタイトルで作成しましたが、3年生になって比較的早い段階でこのテーマを設定し、その年の夏休みにホームステイでアメリカに行った時に現地の方に聞き取り調査をしたり、図書館で文献を集めたりしました。地域の特性によって見解に違いが見られたのも興味深かったです。

お世辞にも真面目とは言えない学生生活を送り、時には指導教官の先生に叱られ、もう少し勉強しておけばよかったと今でも後悔していますが、今からでも遅くないと信じて、いろ

いろいろなことを修得していきたいと思う毎日です。

○松尾忠直助教よりご挨拶

平成24年4月1日より地球環境科学部地理学科でお世話になっております松尾忠直と申します。学部から大学院まで、立正大学の地理学科で学びました。「学務・教育・研究」に真摯に取り組む所存でおります。

卒業論文から今日に至るまで、シイタケ産地の中でも、特に生シイタケの産地に注目して研究を進めてきました。生シイタケの産地では、日本の農業における自給率の低下や企業の農業参入などによる産地の変容を明らかにする上で、先進的な事例が数多くみられます。また、地理学における産地という概念を考えていくうえでも、生シイタケの産地は新たな示唆を与えてくれると考えております。

立正地理学会では、集会委員会に所属しております。会員の皆様とは、集会委員会関係のお仕事でお世話になることと思っております。お気づきの点がございましたら、何なりとお申し出いただければ幸いです。以上、短いご挨拶ではありますが、私の自己紹介とさせていただきます。今後とも、よろしくお願い申し上げます。



○2012年度「彩の国環境地図作品展」のご案内

立正大学地球環境科学部では、2002年度より「彩の国環境地図作品展」を開催しております。「彩の国環境地図作品展」は、身の回りの環境や地域の姿の観察・調査をおこない、地図として表現することにより、環境や地域に対する見方・考え方、地図の持つ可能性に対して、理解を深めることを目的としております。埼玉県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に在籍または埼玉県に在住する児童生徒を対象に、作品を募集しております。

作品の展示会、ならびに入賞作品の発表会・表彰式を下記の日程で開催いたします。ぜひ、お出かけ下さい。

《発表会・表彰式》

2012年12月1日(土) 立正大学熊谷校舎 アカデミックキューブ

《作品展示》

2012年11月 7日(水)～25日(日) 埼玉県環境科学国際センター
(JR鴻巣駅・加須駅よりバス)

2012年11月28日(水)～12月1日(土) 立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ

2012年12月 4日(火)～ 16日(日) 埼玉県立川の博物館
(東武東上線鉢形駅より徒歩20分)

入賞作品は、国土地理院「全国児童生徒地図優秀作品展」(2013年1月 5日～2月17日)に出展されます。また、入賞作品・優秀作品は「彩の国環境地図作品展ホームページ」でも閲覧できます。

「彩の国環境地図作品展」ホームページ (<http://risweb2.ris.ac.jp/ecomap/>)

鈴木厚志・原美登里(立正大学)・亀井啓一郎(立正大学・非)

○会費納入のお願い

2012 年度分の会費が未納の方には、今回の学会ニュースに「会費納入状況のお知らせ」と「払込取扱票」を同封しておりますので、ご納入下さい。また、過年度分会費が未納の方は、過年度分もあわせてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000 円 学生会員 2,500 円
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下の通りです。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない場合には、どなたのお振込みか不明となります。ご入金の際は、払込取扱票の払込人住所氏名の欄に必ず住所と氏名をご記入頂きますよう、お願い致します。

(庶務会計委員会)

編集後記

暑さ寒さも彼岸までと申しますが、熊谷ではまだまだ残暑が続いております。

6月に行われました立正地理学会におきまして、多くの会員の皆様に足をお運びいただき、また私共のインタビューに快くお答え下さり、誠にありがとうございました。インタビューを通して、皆様からたくさんの刺激を受け、多くのことを学ばせて頂いております。今後ともご指導、ご協力をいただくことがあるかと思っておりますが、どうぞ、よろしくお願いいたします。そして、さらなる紙面充実のため皆様からのご投稿もお待ちしております。

(広報委員会 須田恵里香)

立正地理学会ニュース No. 106

2012年 10月 1日発行 編集者 立正地理学会 広報委員会
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内
電話 048-539-1672 振替 00130-8-13453